

1983年生まれ、38歳。円融寺幼稚園、向原小、目黒九中、都立青山高校、東京外語大英語科卒業。
区内の結婚式場に勤務後、手塚よしお秘書。その後、蓮舫秘書。
目黒区議会議員2期、東京都議会議員1期。東京若手議員の会 顧問、子どもの事故予防議連 副代表。

東京都議会議員

都議会立憲民主党

西崎つばさの

政務調査報告

「エスカレーターでは 止まる？歩く？」

問題

Vol.26 西崎つばさレポート

初めに、正直に申し上げます。私自身、せっちな性格も手伝って、駅などのエスカレーターで歩いてしまうことがあります。自戒の念も込めて、今回はエスカレーターの安全利用についての調査を報告いたします。

国際女性デーだった先日の3月8日は、「エスカレーターの日」でもありました。目黒区をはじめ東京都内、あるいは関東圏では、エスカレーターの左側に立ち、右側は歩く人のために空けておく習慣をお持ちの方が多くではないでしょうか。

こうした中で、埼玉県では昨年の10月に「エスカレーターの安全な利用の促進に関する条例」が施行されました。罰則こそ無いものの、利用者に立ち止まった状態で乗る義務を課す、つまり歩行を禁止する点が特徴的で、賛否両論ありながらも話題となりました。

では、東京都においては、どんな取り組みをすべきでしょうか。実は、都議会で質問しようとしたところ、担当部署が存在しないため、誰も回答できないという事態が発生しました。

縦割りの弊害もさることながら、エスカレーターが都内に数多く設置されていることは言うまでもなく、安全利用に向けた施策について、もう少し検討の余地があるのではないのでしょうか。

そこで、問題の背景や論点などについて、皆さまと考えてまいりたいと思います。

安全面から大きな課題

時間に余裕のある人は左側に立ち、急いでいる人は右側を歩くという文化は、一見合理的に思えますが、安全面から考えると、大きな課題を抱えています。

例えば、高齢者や子連れの方などにとっては、横をすり抜けて歩かれるのに危険や不安を感じる場合があります。そもそも、病気や障害のため左側の手すりにつかまるのが困難な方もいらっしゃいますし、介助者や盲導犬がいる場合もあるでしょう。

こうしたことから、東京都理学療法士協会では「わけあってこちら側で止まっています」と書かれたキーホルダーを作成し、エスカレーターに止まって乗ることを呼びかけています。



また、危険はエスカレーターの段上だけではなくありません。駅などで、左側に乗りたいた方が長蛇の列をなしている場面は頻繁に見られますが、こうした渋滞は、狭いホームなどで思わぬ事故に繋がりがねません。

エスカレーター歩行は「想定外」

そもそもエスカレーター自体が、歩くことを想定して設計されていません。

エスカレーターの規格は建築基準法および施行令で
(裏面へ続く→)



定められていますが、歩くことを前提とした階段の規格と比較すると、明らかな違いがあります。

まず、公共施設の階段の幅は 140cm 以上とされていますが、エスカレーターは 110cm 以下となっています。これは、必ずどちらかの手すりに届く距離にしてあるもので、片側を空けて歩くための幅が確保されている訳ではありません。

さらに、階段の一段の高さが 18cm 以下とされている一方で、エスカレーターには基準が無く、20cm 以上が一般的となっています。

また、エスカレーターには緊急停止装置の設置が義務づけられているため、もしこれが作動した場合に転倒しないよう、手すりにつかまって乗ることが前提とされています。

事故も多発している

現実に、転倒などによる事故も発生しています。東京消防庁の統計では、2019 年にエスカレーターの事故で救急搬送されたのは 1428 名で、うち 2 割近くは入院の必要な中等症以上と診断されています。なお、65 歳以上の方が全体の 6 割以上を占めています。



東京消防庁「救急搬送データから見る日常生活事故の実態 (2019 年)」を基に作成

また、2020 年 10 月の日本エレベーター協会の報告では、事故のうち半数以上が「乗り方不良 (歩行する、手すりを持たないなど)」が原因であると分析しています。

輸送効率が低下するとの指摘も

さらに、エスカレーターで片側を空けることは、輸送効率の面からも問題が指摘されています。

NHK の番組内で民間企業が実施したシミュレーションでは、両側に立った場合の方が速く全員を運べる事が判明しました。また、ロンドンの地下鉄で行われた社会実験でも、歩行なしの方が輸送量が 3 割も増

加するという結果が出ています。

単純に考えても、「左側は大渋滞、右側はスカスカ」の状態が効率的だとは思えません。

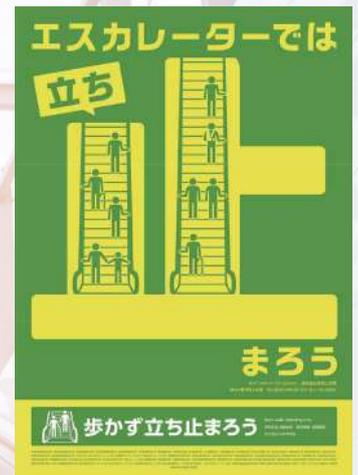
ただし、特定の条件下において、エスカレーターを歩行する人の割合が極めて高い場合には、右側を歩く方が流動効率が良いと指摘する研究もあります。

意識変革のための対策

いくら安全や効率の話をしたところで、いったん根付いた習慣を見直すのは容易ではありません。そこで現在、人々の意識を変えようと、日本各地で啓発活動が行われています。

最も大規模なのが、東京都を含む 9 都県市、50 以上の鉄道事業者、4 団体、空港や商業施設などが共同で実施する『エスカレーター「歩かず立ち止まろう」キャンペーン』で、昨年は 10 月に実施されました。

また、身近なところでは、アトレ目黒で 2017~18 年に、エスカレーターのステップや手すりにデザインを施すことで、安全な利用を促す啓発プロジェクトが行われています。



あなたはどう思いますか？

最新のアンケート調査では、「エスカレーターの歩行はやめた方がいい」と思う人の割合は増加傾向にあり、2020 年で 86.9% に達しています。

一方で、「歩行してしまうことがある」割合は減少傾向にあるものの、いまだ 68.2% となっており、人々にジレンマがあることを感じさせます。

エスカレーターを歩く人にとっては、その方が速いのは事実ですが、それによって他の多くの人々が不利益を被っていると考えたら、どうでしょう。誤った使い方によって、危険性が高まり、効率は低下し、弱者や多様性への配慮はないがしろにされているとしたら…

あらためて、我々はどうすべきか、考えてみませんか？ ぜひ、皆さまのご意見をお聞かせください。



LINEでお気軽に
お寄せください。